様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

| | |
|---|---|
| 学校名 | 福島工業高等専門学校 |
| 設置者名 | 独立行政法人国立高等専門学校機構 |

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 学部名 | 学科名 | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数 | | | | 省令で定める基準単位数 | 配置困難 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 全学共通科目 | 学部等共通科目 | 専門科目 | 合計 | | |
| | 機械システム工学科 | 夜・通信 | 0 | 3 | 16 | 19 | 7 | |
| | 電気電子システム工学科 | 夜・通信 | 0 | 3 | 12 | 15 | 7 | |
| | 化学・バイオ工学科 | 夜・通信 | 0 | 3 | 6 | 9 | 7 | |
| | 都市システム工学科 | 夜・通信 | 0 | 3 | 11 | 14 | 7 | |
| | ビジネスコミュニケーション学科 | 夜・通信 | 0 | 2 | 17 | 19 | 7 | |
| | 産業技術システム工学専攻<br>生産・情報システム工学コース | 夜・通信 | 0 | 10 | 0 | 10 | 7 | |
| | 産業技術システム工学専攻<br>エネルギーシステム工学コース | 夜・通信 | 0 | 10 | 0 | 10 | 7 | |
| | 産業技術システム工学専攻<br>化学・バイオ工学コース | 夜・通信 | 0 | 10 | 0 | 10 | 7 | |
| | 産業技術システム工学専攻<br>社会環境システム工学コース | 夜・通信 | 0 | 10 | 0 | 10 | 7 | |
| | ビジネスコミュニケーション学専攻<br>ビジネスコミュニケーション学コース | 夜・通信 | 0 | 10 | 0 | 10 | 7 | |
| （備考） | | | | | | | | |

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

福島高専 HP　学校案内＞情報公開＞高等教育の修学支援制度に係る公開情報
http://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/info/jyohokoukai.html

３．要件を満たすことが困難である学部等

| 学部等名 |
|---|

（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

| | |
|---|---|
| 学校名 | 福島工業高等専門学校 |
| 設置者名 | 独立行政法人国立高等専門学校機構 |

１．理事（役員）名簿の公表方法

| |
|---|
| ホームページにて公表<br>https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/kisoku/yakuin-20221016.pdf |

２．学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容や期待する役割 |
|---|---|---|---|
| 常勤 | 熊本大学長 | 2016 年 4 月 1 日 ～ 2024 年 3 月 31 日 | 理事長 |
| 常勤 | 豊橋技術科学大学理事・副学長 | 2020 年 4 月 1 日 ～ 2024 年 3 月 31 日 | 国際交流･海外展開情報システム |
| 非常勤 | 東京大学教授 | 2022 年 4 月 1 日 ～ 2024 年 3 月 31 日 | 男女共同参画 |
| （備考） | | | |

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|---|---|
| 学校名 | 福島工業高等専門学校 |
| 設置者名 | 独立行政法人国立高等専門学校機構 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

| | |
|---|---|
| １．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）を作成し、公表していること。 | |
| （授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）<br><br>授業科目について授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載したシラバスを作成している。<br>シラバスは、以下の過程を経て作成し、公表している。<br>11 月頃、学科毎に次年度授業科目の担当教員を決定する。<br>担当教員が各シラバスを１月末までに作成する。<br>成績評価方法等が適切に設定されていることを各学科教務委員が確認する。<br>翌年度 4 月に WEB 上で公開する。 | |
| 授業計画書の公表方法 | https://syllabus.kosen-k .go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=10&lang=ja |
| ２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 | |

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

科目毎に学修効果を考慮し、定期試験や課題等の成績評価割合を設定している。これら評価方法はシラバスに記載され、あらかじめ学生に公表される。また、卒業研究や特別研究等の実習科目は成果発表会の実施、卒業論文の提出、実験科目ではレポートの提出等により適正に評価のうえ、単位を与えている。「学則」及び「福島工業高等専門学校試験及び成績評価に関する規則」により、成績評価や単位認定の基準を示し、進級・卒業・修了を認定している。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

客観的な指標として、「福島工業高等専門学校試験及び成績評価に関する規則」に受講科目成績の平均点を用いた席次の算出方法が記載されており、規則を公表している。席次は、「学級単位に，受講した全科目の成績評価結果の平均点により，上位からつけた順位をいう」と定義付けている。
これにより成績の分布状況を把握し、学修指導を適切に行っている。

| | |
|---|---|
| 客観的な指標の算出方法の公表方法 | 福島高専 HP　成績評価基準<br>https://www.fukushima-nct.ac.jp/zaikou_hogosha/kyoumu/jyugyo_shiken.html |

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

<table>
<tr><td colspan="2">（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）<br><br>ディプロマポリシーを策定し、公表している。以下の項目を置き、詳細をHPで公開している。<br>〇養成する人材像<br>＜準学士課程（本科）、専攻科課程＞<br>＜準学士課程（本科）の各学科で養成する人材像＞<br>＜専攻科課程の各専攻で養成する人材像＞<br>〇卒業時（修了時）に身に付けるべき学力や資質・能力<br><br>また、ディプロマポリシーに定めた能力を身に付けるために、カリキュラムポリシーを策定し、これに基づいた教育課程の策定により適切な教育の実施、成績評価を行っている。なお、学生の卒業及び修了認定は、「学則」及び「福島工業高等専門学校試験及び成績評価に関する規則」によって修得単位数等を踏まえ、適切に行っている。</td></tr>
<tr><td>卒業の認定に関する<br>方針の公表方法</td><td>福島高専 HP<br>ディプロマポリシー<br>http://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/diplomapolicy.html<br>カリキュラムポリシー<br>http://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/curriculumpolicy.html</td></tr>
</table>

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

| | |
|---|---|
| 学校名 | 福島工業高等専門学校 |
| 設置者名 | 独立行政法人国立高等専門学校機構 |

## １．財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|---|---|
| 貸借対照表 | https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR3.pdf |
| 収支計算書又は損益計算書 | https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR3.pdf |
| 財産目録 | |
| 事業報告書 | https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/R3jigyouhoukoku.pdf |
| 監事による監査報告（書） | https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kansaR3.pdf |

## ２．事業計画（任意記載事項）

| |
|---|
| 単年度計画（名称：独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画　対象年度：令和５年度） |
| 公表方法：<br>https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/01_%E7%B7%8F%E5%8B%99/r5-keikaku.pdf |
| 中長期計画（名称：独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画　対象年度：平成 31 年（2019 年）４月１日から令和６年（2024 年）３月 31 日まで） |
| 公表方法：<br>https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/01_%E7%B7%8F%E5%8B%99/4th-keikaku.pdf |

## ３．教育活動に係る情報

### （１）自己点検・評価の結果

| |
|---|
| 公表方法：福島高専 HP　外部評価＞認証評価　自己評価書<br>https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/gaibu/ninsyohyoka2.html |

### （２）認証評価の結果（任意記載事項）

| |
|---|
| 公表方法： |

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

| 学部等名　機械システム工学科 |
|---|
| 教育研究上の目的（公表方法：http://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/rinen.html） |
| （概要）<br>教育理念<br>1. 広く豊かな教養と人間力の育成<br>2. 科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成<br>3. 固有の才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成<br><br>学習・教育目標<br>(A) 地球的視野から人や社会や環境に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。<br>(B) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。<br>(C) 工学系科目－ビジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。<br>(D) イノベーションに即応するために、 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力を身につける。<br>(E) モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける。<br>(F) 情報技術を活用して、グローバルなコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。<br><br>養成する人材像<br>【工学系学科と専攻】<br>①十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できるエンジニア<br>②イノベーションに即応するために、問題解決のみならず課題探究できるエンジニア<br>③モノづくりと環境保全の調和に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できるエンジニア<br>④グローバルなコミュニケーション能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的エンジニア<br><br>準学士課程における各学科で養成する人材像<br>【機械システム工学科】<br>機械工学の専門知識を持って他分野の技術も取り入れることで、高度化するシステムに対処し、常に発展する新しいモノづくりを担うことができる機械技術者を育成する。 |
| 卒業の認定に関する方針<br>（公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/diplomapolicy.html） |
| （概要）<br>○養成する人材像<br>＜準学士課程（本科）、専攻科課程＞<br>【工学系学科と専攻】<br>①十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できるエンジニア<br>②イノベーションに即応するために、問題解決のみならず課題探究できるエンジニア<br>③モノづくりと環境保全の調和に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できるエンジニア<br>④グローバルなコミュニケーション能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的エンジニア<br><br>準学士課程における各学科で養成する人材像<br>【機械システム工学科】<br>機械工学の専門知識を持って他分野の技術も取り入れることで、高度化するシステムに対処し、 |

常に発展する新しいモノづくりを担うことができる機械技術者を育成する。

○卒業時(修了時)に身に付けるべき学力や資質・能力
＜準学士課程(本科)＞
1. 豊かな教養と国際的な感覚を有し、継続的な自己学習ができる人間性
2. 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力
3. モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力
4. 日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力
5. 福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献できる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/curriculumpolicy.html）

（概要）
「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を身につけるため、次のような教育課程の編成方針、および成績評価基準(カリキュラムポリシー)に基づいて教育を実施している。

○編成方針
(1)準学士課程(本科)においては、くさび型※の構成であり、「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」を身に付けるための必修科目、選択科目を適切に設定した、5 年一貫の体系的な教育課程を編成する。専攻科においては、準学士課程の内容からの接続、発展を考慮した、より高度な教育課程を編成する。
※くさび型の教育課程:低学年次においては一般科目を多く配置し、学年の進行に伴い専門科目を多く配置する教育課程
(2)「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を深化させるため、高学年、および専攻科においては、モノづくり、校外での体験、問題解決能力の養成等に関する科目を開設する。
(3)教育課程を編成するに当たっては、全学年で基本的な知識・技能の修得、それらを応用し思考、判断する能力の修得、それらを自発的に学習できる態度・志向性を修得できるように配慮して、科目配置や科目毎の授業内容や授業計画を設計しシラバスに記載し、シラバスにしたがい教育を実施する。

○成績評価基準
(1)科目の成績評価は、定期試験の成績および平素の成績をもとに行う。評価方法はシラバスに記載し、記載された評価方法に基づいて公平に成績評価を実施する。
(2)科目の成績評価結果は 100 点法で行い、60 点以上を合格とする。
(3)各科目について、成績評価が 60 点以上の場合は単位の修得を認定する。

○準学士課程(本科)　学科ごとの教育課程編成方針
ディプロマポリシーで掲げた能力を育成するために、各学科では、以下の科目群を系統的に編成する。
【機械システム工学科】
(1)豊かな教養と国際的感覚を有し、継続的な自己学習が出来る人間性を修得できるように、低学年次に理系教養科目、文系教養科目および情報リテラシー科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
(2)専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力を修得できるように、中学年次から高学年次に力学系、材料・加工系、機構・制御系を基盤とした専門基礎科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
(3)モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力を修得できるように、中学年次から高学年次に工学実験、工学セミナー、卒業研究等の技術修得・問題解決能力・応用力・チームワークといった総合的能力を養うための科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
(4)日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力を修得できるように、中学年次から高学年次に校外実習、卒業研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学

修を実施する。
(5)福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献する積極性を修得できるように、低学年次から高学年次に復興関連科目を設け、集中講義による学修を実施する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/admissionpolicy.html）

（概要）
アドミッションポリシー（入学者受入方針）は、本校の学習・教育目標を達成できる能力を持った人を入学させるための方針で、次のように定めている。
○準学士課程（本科）
求める学生像
【全学科】
1. 基礎的学習内容を十分に理解し、自ら学ぼうとする人（知識・技能）
2. 自ら目標を立て、達成に向けて粘り強く努力する人（思考力・判断力・表現力）
3. あらゆる物事に関心を持ち、深く探究する人（思考力・判断力・表現力）
4. 創造的な「モノづくり」に強い興味を持っている人（主体性・協働）
5. しっかりしたモラルを持ち、まわりの人たちを尊重する人（主体性・協働）

入学者選抜の基本方針
1. 中学校で学習する国語・社会・数学・理科・英語の学習内容を十分に理解していること
2. 中学校での成績評価が良好なこと
3. 課題達成型推薦入試においては、モノづくりや課外活動などの課題に取り組み、顕著な結果を残していること

【機械システム工学科】
①ロボット技術や機械の仕組みに興味があり、アイデアを形にしたい人
②環境にやさしいエネルギー技術に関心のある人
③モノづくりの知識と技術を身に付けて、将来、地域の発展に貢献したい人

学部等名　電気電子システム工学科

教育研究上の目的（公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/rinen.html）

（概要）
教育理念
1. 広く豊かな教養と人間力の育成
2. 科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
3. 固有の才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成

学習・教育目標
(A) 地球的視野から人や社会や環境に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。
(B) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。
(C) 工学系科目－ビジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。
(D) イノベーションに即応するために、 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力を身につける。
(E) モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける。
(F) 情報技術を活用して、グローバルなコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

養成する人材像
【工学系学科と専攻】
①十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できるエンジニア
②イノベーションに即応するために、問題解決のみならず課題探究できるエンジニア
③モノづくりと環境保全の調和に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できるエンジニア
④グローバルなコミュニケーション能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的エンジニア

準学士課程における各学科で養成する人材像
【電気電子システム工学科】
電気・電子・情報の技術を応用することでシステムを構築し、産業界の多様な問題を解決できるクリエイティブな技術者を育成する。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/diplomapolicy.html）

（概要）
○養成する人材像
＜準学士課程（本科）、専攻科課程＞
【工学系学科と専攻】
①十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できるエンジニア
②イノベーションに即応するために、問題解決のみならず課題探究できるエンジニア
③モノづくりと環境保全の調和に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できるエンジニア
④グローバルなコミュニケーション能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的エンジニア

準学士課程における各学科で養成する人材像
【電気電子システム工学科】
電気・電子・情報の技術を応用することでシステムを構築し、産業界の多様な問題を解決できるクリエイティブな技術者を育成する。

○卒業時（修了時）に身に付けるべき学力や資質・能力
＜準学士課程（本科）＞
1．豊かな教養と国際的な感覚を有し、継続的な自己学習ができる人間性
2．専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力
3．モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力
4．日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力
5．福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献できる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/curriculumpolicy.html）

（概要）
「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を身につけるため、次のような教育課程の編成方針、および成績評価基準（カリキュラムポリシー）に基づいて教育を実施している。

○編成方針
（1）準学士課程（本科）においては、くさび型※の構成であり、「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」を身に付けるための必修科目、選択科目を適切に設定した、5 年一貫の体系的な教育課程を編成する。専攻科においては、準学士課程の内容からの接続、発展を考慮した、より高度な教育課程を編成する。
※くさび型の教育課程：低学年次においては一般科目を多く配置し、学年の進行に伴い専門科目を多く配置する教育課程
（2）「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を深化させるため、高学年、および専攻科においては、モノづくり、校外での体験、問題解決能力の養成等に関する科目を開設する。

(3)教育課程を編成するに当たっては、全学年で基本的な知識・技能の修得、それらを応用し思考、判断する能力の修得、それらを自発的に学習できる態度・志向性を修得できるように配慮して、科目配置や科目毎の授業内容や授業計画を設計しシラバスに記載し、シラバスにしたがい教育を実施する。

○成績評価基準
(1)科目の成績評価は、定期試験の成績および平素の成績をもとに行う。評価方法はシラバスに記載し、記載された評価方法に基づいて公平に成績評価を実施する。
(2)科目の成績評価結果は 100 点法で行い、60 点以上を合格とする。
(3)各科目について、成績評価が 60 点以上の場合は単位の修得を認定する。

○準学士課程(本科)　学科ごとの教育課程編成方針
ディプロマポリシーで掲げた能力を育成するために、各学科では、以下の科目群を系統的に編成する。
【電気電子システム工学科】
(1)豊かな教養と国際的感覚を有し、継続的な自己学習が出来る人間性を修得できるように、低学年次に理系教養科目、文系教養科目および情報リテラシー科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
(2)専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力を修得できるように、中学年次から高学年次に電力系、電気・電子系、情報系を基盤とした専門基礎科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
(3)モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力を修得できるように、中学年次から高学年次に工学実験、工学セミナー、卒業研究等の技術修得・問題解決能力・応用力・チームワークといった総合的能力を養うための科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
(4)日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力を修得できるように、中学年次から高学年次に校外実習、卒業研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
(5)福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献する積極性を修得できるように、低学年次から高学年次に復興関連科目を設け、集中講義による学修を実施する。

入学者の受入れに関する方針
(公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/admissionpolicy.html)

(概要)
アドミッションポリシー(入学者受入方針)は、本校の学習・教育目標を達成できる能力を持った人を入学させるための方針で、次のように定めている。
○準学士課程(本科)
求める学生像
【全学科】
1. 基礎的学習内容を十分に理解し、自ら学ぼうとする人(知識・技能)
2. 自ら目標を立て、達成に向けて粘り強く努力する人(思考力・判断力・表現力)
3. あらゆる物事に関心を持ち、深く探究する人(思考力・判断力・表現力)
4. 創造的な「モノづくり」に強い興味を持っている人(主体性・協働)
5. しっかりしたモラルを持ち、まわりの人たちを尊重する人(主体性・協働)

入学者選抜の基本方針
1. 中学校で学習する国語・社会・数学・理科・英語の学習内容を十分に理解していること
2. 中学校での成績評価が良好なこと
3. 課題達成型推薦入試においては、モノづくりや課外活動などの課題に取り組み、顕著な結果を残していること

【電気電子システム工学科】
①ロボット制御技術、エネルギー技術、情報通信技術に興味があり、将来、その技術者として　社会に貢献したい人
②電気回路やコンピュータ、センサなどを駆使して、様々なシステムをつくりあげたい人
③電気・電子・情報について学んだ知識を応用して、自分のアイデアを形にしたい人
④電気電子技術をベースとして、農林水産業、サービス業など様々な業種に関心を持ち、これらの産業を活性化したいと考えている人

学部等名　化学・バイオ工学科

教育研究上の目的（公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/rinen.html）

（概要）
教育理念
1．広く豊かな教養と人間力の育成
2．科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
3．固有の才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成

学習・教育目標
(A) 地球的視野から人や社会や環境に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。
(B) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。
(C) 工学系科目－ビジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。
(D) イノベーションに即応するために、 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力を身につける。
(E) モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける。
(F) 情報技術を活用して、グローバルなコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

養成する人材像
【工学系学科と専攻】
①十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できるエンジニア
②イノベーションに即応するために、問題解決のみならず課題探究できるエンジニア
③モノづくりと環境保全の調和に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できるエンジニア
④グローバルなコミュニケーション能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的エンジニア

準学士課程における各学科で養成する人材像
【化学・バイオ工学科】
持続可能な社会を実現するために、物理化学、無機化学、分析化学、有機化学、生物化学、化学工学などの専門分野の基礎知識を身につけ、化学製品、材料、食品など物質生産の分野において幅広く活躍できる化学技術者を育成する。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/diplomapolicy.html）

（概要）
○養成する人材像
＜準学士課程（本科）、専攻科課程＞
【工学系学科と専攻】
①十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できるエンジニア
②イノベーションに即応するために、問題解決のみならず課題探究できるエンジニア
③モノづくりと環境保全の調和に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できるエンジニア
④グローバルなコミュニケーション能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的エンジニア

準学士課程における各学科で養成する人材像
【化学・バイオ工学科】
持続可能な社会を実現するために、物理化学、無機化学、分析化学、有機化学、生物化学、化学工学などの専門分野の基礎知識を身につけ、化学製品、材料、食品など物質生産の分野において幅広く活躍できる化学技術者を育成する。

○卒業時（修了時）に身に付けるべき学力や資質・能力
＜準学士課程（本科）＞
1．豊かな教養と国際的な感覚を有し、継続的な自己学習ができる人間性
2．専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力
3．モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力
4．日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力
5．福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献できる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/curriculumpolicy.html）

（概要）
「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を身につけるため、次のような教育課程の編成方針、および成績評価基準（カリキュラムポリシー）に基づいて教育を実施している。

○編成方針
（1）準学士課程（本科）においては、くさび型※の構成であり、「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」を身に付けるための必修科目、選択科目を適切に設定した、5 年一貫の体系的な教育課程を編成する。専攻科においては、準学士課程の内容からの接続、発展を考慮した、より高度な教育課程を編成する。
※くさび型の教育課程：低学年次においては一般科目を多く配置し、学年の進行に伴い専門科目を多く配置する教育課程
（2）「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を深化させるため、高学年、および専攻科においては、モノづくり、校外での体験、問題解決能力の養成等に関する科目を開設する。
（3）教育課程を編成するに当たっては、全学年で基本的な知識・技能の修得、それらを応用し思考、判断する能力の修得、それらを自発的に学習できる態度・志向性を修得できるように配慮して、科目配置や科目毎の授業内容や授業計画を設計しシラバスに記載し、シラバスにしたがい教育を実施する。

○成績評価基準
（1）科目の成績評価は、定期試験の成績および平素の成績をもとに行う。評価方法はシラバスに記載し、記載された評価方法に基づいて公平に成績評価を実施する。
（2）科目の成績評価結果は 100 点法で行い、60 点以上を合格とする。
（3）各科目について、成績評価が 60 点以上の場合は単位の修得を認定する。

○準学士課程（本科）　学科ごとの教育課程編成方針
ディプロマポリシーで掲げた能力を育成するために、各学科では、以下の科目群を系統的に編成

する。
【化学・バイオ工学科】
(1)豊かな教養と国際的感覚を有し、継続的な自己学習が出来る人間性を修得できるように、低学年次に理系教養科目、文系教養科目および情報リテラシー科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
(2)専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力を修得できるように、中学年次から高学年次に応用化学系、生物工学系を基盤とした専門基礎科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
(3)モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力を修得できるように、中学年次から高学年次に工学実験、工学セミナー、卒業研究等の技術修得・問題解決能力・応用力・チームワークといった総合的能力を養うための科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
(4)日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力を修得できるように、中学年次から高学年次に校外実習、卒業研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
(5)福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献する積極性を修得できるように、低学年次から高学年次に復興関連科目を設け、集中講義による学修を実施する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/admissionpolicy.html）

（概要）
アドミッションポリシー（入学者受入方針）は、本校の学習・教育目標を達成できる能力を持った人を入学させるための方針で、次のように定めている。
○準学士課程（本科）
求める学生像
【全学科】
1. 基礎的学習内容を十分に理解し、自ら学ぼうとする人（知識・技能）
2. 自ら目標を立て、達成に向けて粘り強く努力する人（思考力・判断力・表現力）
3. あらゆる物事に関心を持ち、深く探究する人（思考力・判断力・表現力）
4. 創造的な「モノづくり」に強い興味を持っている人（主体性・協働）
5. しっかりしたモラルを持ち、まわりの人たちを尊重する人（主体性・協働）

入学者選抜の基本方針
1. 中学校で学習する国語・社会・数学・理科・英語の学習内容を十分に理解していること
2. 中学校での成績評価が良好なこと
3. 課題達成型推薦入試においては、モノづくりや課外活動などの課題に取り組み、顕著な結果を残していること

【化学・バイオ工学科】
①化学やバイオテクノロジーの知識と技術を身につけて、将来、その技術者として地域・社会に貢献したい人
②地球に優しい化学技術や新素材をつくり、環境問題の解決、持続可能な社会の構築を目指したい人
③学んだ化学バイオ技術を、農林水産資源の生産・管理や有効活用に役立てたいと考える人

| 学部等名　都市システム工学科 |
| --- |
| 教育研究上の目的（公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/rinen.html） |

（概要）
教育理念
1．広く豊かな教養と人間力の育成
2．科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
3．固有の才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成

学習・教育目標
(A) 地球的視野から人や社会や環境に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。
(B) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。
(C) 工学系科目－ビジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。
(D) イノベーションに即応するために、 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力を身につける。
(E) モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける。
(F) 情報技術を活用して、グローバルなコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

養成する人材像
【工学系学科と専攻】
①十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できるエンジニア
②イノベーションに即応するために、問題解決のみならず課題探究できるエンジニア
③モノづくりと環境保全の調和に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できるエンジニア
④グローバルなコミュニケーション能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的エンジニア

準学士課程における各学科で養成する人材像
【都市システム工学科】
持続可能な建設技術を基礎に、社会基盤施設の維持・管理分野や自然災害に対する防災・減災分野で活躍できるシビルエンジニアを育成する。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/diplomapolicy.html）

（概要）
○養成する人材像
＜準学士課程（本科）、専攻科課程＞
【工学系学科と専攻】
①十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できるエンジニア
②イノベーションに即応するために、問題解決のみならず課題探究できるエンジニア
③モノづくりと環境保全の調和に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できるエンジニア
④グローバルなコミュニケーション能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的エンジニア

準学士課程における各学科で養成する人材像
【都市システム工学科】
持続可能な建設技術を基礎に、社会基盤施設の維持・管理分野や自然災害に対する防災・減災分野で活躍できるシビルエンジニアを育成する。

○卒業時（修了時）に身に付けるべき学力や資質・能力
＜準学士課程（本科）＞
1．豊かな教養と国際的な感覚を有し、継続的な自己学習ができる人間性
2．専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力
3．モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力

4．日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力
5．福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献できる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/curriculumpolicy.html）

（概要）
「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を身につけるため、次のような教育課程の編成方針、および成績評価基準（カリキュラムポリシー）に基づいて教育を実施している。

○編成方針
（1）準学士課程（本科）においては、くさび型※の構成であり、「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」を身に付けるための必修科目、選択科目を適切に設定した、5 年一貫の体系的な教育課程を編成する。専攻科においては、準学士課程の内容からの接続、発展を考慮した、より高度な教育課程を編成する。
※くさび型の教育課程：低学年次においては一般科目を多く配置し、学年の進行に伴い専門科目を多く配置する教育課程
（2）「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を深化させるため、高学年、および専攻科においては、モノづくり、校外での体験、問題解決能力の養成等に関する科目を開設する。
（3）教育課程を編成するに当たっては、全学年で基本的な知識・技能の修得、それらを応用し思考、判断する能力の修得、それらを自発的に学習できる態度・志向性を修得できるように配慮して、科目配置や科目毎の授業内容や授業計画を設計しシラバスに記載し、シラバスにしたがい教育を実施する。

○成績評価基準
（1）科目の成績評価は、定期試験の成績および平素の成績をもとに行う。評価方法はシラバスに記載し、記載された評価方法に基づいて公平に成績評価を実施する。
（2）科目の成績評価結果は 100 点法で行い、60 点以上を合格とする。
（3）各科目について、成績評価が 60 点以上の場合は単位の修得を認定する。

○準学士課程（本科）　学科ごとの教育課程編成方針
ディプロマポリシーで掲げた能力を育成するために、各学科では、以下の科目群を系統的に編成する。
【都市システム工学科】
（1）豊かな教養と国際的感覚を有し、継続的な自己学習が出来る人間性を修得できるように、低学年次に理系教養科目、文系教養科目および情報リテラシー科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
（2）専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力を修得できるように、中学年次から高学年次に力学系、環境系、計画系を基盤とした専門基礎科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
（3）モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力を修得できるように、中学年次から高学年次に工学実験、工学セミナー、卒業研究等の技術修得・問題解決能力・応用力・チームワークといった総合的能力を養うための科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
（4）日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力を修得できるように、中学年次から高学年次に校外実習、卒業研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
（5）福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献する積極性を修得できるように、低学年次から高学年次に復興関連科目を設け、集中講義による学修を実施する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/admissionpolicy.html）

（概要）
アドミッションポリシー（入学者受入方針）は、本校の学習・教育目標を達成できる能力を持った人を入学させるための方針で、次のように定めている。
○準学士課程（本科）
求める学生像
【全学科】
1．基礎的学習内容を十分に理解し、自ら学ぼうとする人（知識・技能）
2．自ら目標を立て、達成に向けて粘り強く努力する人（思考力・判断力・表現力）
3．あらゆる物事に関心を持ち、深く探究する人（思考力・判断力・表現力）
4．創造的な「モノづくり」に強い興味を持っている人（主体性・協働）
5．しっかりしたモラルを持ち、まわりの人たちを尊重する人（主体性・協働）

入学者選抜の基本方針
1．中学校で学習する国語・社会・数学・理科・英語の学習内容を十分に理解していること
2．中学校での成績評価が良好なこと
3．課題達成型推薦入試においては、モノづくりや課外活動などの課題に取り組み、顕著な結果を残していること

【都市システム工学科】
①自然環境と調和した建設技術に興味を持っている人
②道路・橋・港など建設構造物の維持管理に興味を持っている人
③災害に負けない安全なまちづくりに貢献したい人

| 学部等名　ビジネスコミュニケーション学科 |
| --- |
| 教育研究上の目的（公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/rinen.html） |

（概要）
教育理念
1．広く豊かな教養と人間力の育成
2．科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
3．固有の才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成

学習・教育目標
(A) 地球的視野から人や社会や環境に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。
(B) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。
(C) 工学系科目－ビジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。
(D) イノベーションに即応するために、 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力を身につける。
(E) モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける。
(F) 情報技術を活用して、グローバルなコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。
養成する人材像
【ビジネス系学科と専攻】
①自己実現ができるビジネス・スペシャリスト
②グローバルなコミュニケーション能力を有するビジネス・スペシャリスト
③論理的思考に優れたビジネス・スペシャリスト
④長期的な視野をもち、持続可能な社会の実現に貢献するビジネス・スペシャリスト

| |
|---|
| 準学士課程における各学科で養成する人材像<br>【ビジネスコミュニケーション学科】<br>社会に対して広く関心を持ち、進展するグローバル化に対応できるリテラシー（語学や情報など）を身につけるとともに、環境問題に配慮し持続可能な社会に貢献できる人材の育成 |
| 卒業の認定に関する方針<br>（公表方法：http://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/diplomapolicy.html） |
| （概要）<br>○養成する人材像<br>＜準学士課程（本科）、専攻科課程＞<br>【ビジネス系学科と専攻】<br>①自己実現ができるビジネス・スペシャリスト<br>②グローバルなコミュニケーション能力を有するビジネス・スペシャリスト<br>③論理的思考に優れたビジネス・スペシャリスト<br>④長期的な視野をもち、持続可能な社会の実現に貢献するビジネス・スペシャリスト<br><br>準学士課程における各学科で養成する人材像<br>【ビジネスコミュニケーション学科】<br>社会に対して広く関心を持ち、進展するグローバル化に対応できるリテラシー（語学や情報など）を身につけるとともに、環境問題に配慮し持続可能な社会に貢献できる人材を育成する。<br><br>○卒業時（修了時）に身に付けるべき学力や資質・能力<br>＜準学士課程（本科）＞<br>1．豊かな教養と国際的な感覚を有し、継続的な自己学習ができる人間性<br>2．専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力<br>3．モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力<br>4．日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力<br>5．福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献できる能力 |
| 教育課程の編成及び実施に関する方針<br>（公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/curriculumpolicy.html） |
| （概要）<br>「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を身につけるため、次のような教育課程の編成方針、および成績評価基準（カリキュラムポリシー）に基づいて教育を実施している。<br><br>○編成方針<br>（1）準学士課程（本科）においては、くさび型※の構成であり、「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」を身に付けるための必修科目、選択科目を適切に設定した、5 年一貫の体系的な教育課程を編成する。専攻科においては、準学士課程の内容からの接続、発展を考慮した、より高度な教育課程を編成する。<br>※くさび型の教育課程：低学年次においては一般科目を多く配置し、学年の進行に伴い専門科目を多く配置する教育課程<br>（2）「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を深化させるため、高学年、および専攻科においては、モノづくり、校外での体験、問題解決能力の養成等に関する科目を開設する。<br>（3）教育課程を編成するに当たっては、全学年で基本的な知識・技能の修得、それらを応用し思考、判断する能力の修得、それらを自発的に学習できる態度・志向性を修得できるように配慮して、科目配置や科目毎の授業内容や授業計画を設計しシラバスに記載し、シラバスにしたがい教育を実施する。 |

○成績評価基準
(1)科目の成績評価は、定期試験の成績および平素の成績をもとに行う。評価方法はシラバスに記載し、記載された評価方法に基づいて公平に成績評価を実施する。
(2)科目の成績評価結果は 100 点法で行い、60 点以上を合格とする。
(3)各科目について、成績評価が 60 点以上の場合は単位の修得を認定する。

○準学士課程(本科)　学科ごとの教育課程編成方針
ディプロマポリシーで掲げた能力を育成するために、各学科では、以下の科目群を系統的に編成する。

【ビジネスコミュニケーション学科】
(1)豊かな教養と国際的感覚を有し、継続的な自己学習が出来る人間性を修得できるように、低学年次に理系教養科目、文系教養科目および情報リテラシー科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
(2)専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力を修得できるように、中学年次から高学年次に経済・経営・会計系、数理・情報系、語学・人文系を基盤とした専門基礎科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
(3)モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力を修得できるように、中学年次から高学年次にセミナー、卒業研究等の技術修得・問題解決能力・応用力・チームワークといった総合的能力を養うための科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
(4)日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力を修得できるように、中学年次から高学年次に校外実習、卒業研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
(5)福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献する積極性を修得できるように、低学年次から高学年次に復興関連科目を設け、集中講義による学修を実施する。

入学者の受入れに関する方針
(公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/admissionpolicy.html)

(概要)
アドミッションポリシー(入学者受入方針)は、本校の学習・教育目標を達成できる能力を持った人を入学させるための方針で、次のように定めている。
○準学士課程(本科)
求める学生像
【全学科】
1. 基礎的学習内容を十分に理解し、自ら学ぼうとする人(知識・技能)
2. 自ら目標を立て、達成に向けて粘り強く努力する人(思考力・判断力・表現力)
3. あらゆる物事に関心を持ち、深く探究する人(思考力・判断力・表現力)
4. 創造的な「モノづくり」に強い興味を持っている人(主体性・協働)
5. しっかりしたモラルを持ち、まわりの人たちを尊重する人(主体性・協働)

入学者選抜の基本方針
1. 中学校で学習する国語・社会・数学・理科・英語の学習内容を十分に理解していること
2. 中学校での成績評価が良好なこと
3. 課題達成型推薦入試においては、モノづくりや課外活動などの課題に取り組み、顕著な結果を残していること

【ビジネスコミュニケーション学科】
①社会・経済のしくみや動きに広く関心のある人
②外国語によるコミュニケーション能力を高めて、グローバルに活躍したい人
③情報リテラシーを身につけて、高度情報化社会で活躍したい人
④地球環境に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献したい人

| 学部等名　専攻科産業技術システム工学専攻 |
| --- |
| 教育研究上の目的（公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/rinen.html） |

（概要）
教育理念
1. 広く豊かな教養と人間力の育成
2. 科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
3. 固有の才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成

学習・教育目標
(A) 地球的視野から人や社会や環境に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。
(B) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。
(C) 工学系科目－ビジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。
(D) イノベーションに即応するために、 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力を身につける。
(E) モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける。
(F) 情報技術を活用して、グローバルなコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

養成する人材像
【工学系学科と専攻】
①十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できるエンジニア
②イノベーションに即応するために、問題解決のみならず課題探究できるエンジニア
③モノづくりと環境保全の調和に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できるエンジニア
④グローバルなコミュニケーション能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的エンジニア

専攻科課程の各専攻で養成する人材像
【産業技術システム工学専攻】
本科の機械システム工学科、電気電子システム工学科、化学・バイオ工学科、都市システム工学科のそれぞれの専門分野の基礎学力を充実させ、その応用性や専門性を深める。また復興人材育成特別プログラムにより地域復興に活躍できる人材を育成する。
本専攻は次の4つのコースから成る。

＜生産・情報システム工学コース＞
　機械系・電気系の材料工学分野及び機械加工系、電子・情報工学系を融合した教育・研究を行う。機械設計関連、システム制御関連、電子物性関連及び情報関連分野に関するより高度で応用性の高い専門科目を学び生産・情報分野で活躍できる人材を育成する。このコースの教育研究は復興人材育成特別プログラムのロボット技術、メカトロニクス、防災通信等　と密接に関係しており、これらの分野で地域の復興に活躍できる人材も育成する。
＜エネルギーシステム工学コース＞
機械系・電気系のエネルギー関連分野の教育・研究を行う。エネルギー分野に関するより高度で応用性の高い専門科目を学び、機械・電気関連のエネルギー分野で活躍できる人材を育成する。このコースの教育研究は復興人材育成特別プログラムの再生可能エネルギー分野、原子力安全工学分野にも密接に関係しており、エネルギー関連産業で活躍できる人材も育成する。
＜化学・バイオ工学コース＞
応用化学分野・生命工学分野及びそれらの関連分野の教育・研究を行う。化学・バイオ工学科（準学士課程）専門分野の基礎学力をさらに充実させたうえで、その専門性を高める。さらに、現代の応用化学分野・生命工学分野及びそれらの関連分野における先端技術やその動向に柔軟に対応できる人材を育成する。このコースの教育研究は、復興人材育成特別プログラムの放射線

計測関連分野に関係しており、廃炉技術の重要な一分野である放射線及び放射性物質の取扱いの分野で活躍できる人材も育成する。
＜社会環境システム工学コース＞
建設・環境系の教育・研究を行う。土木工学と環境工学に関する専門知識を修得し、さらに関連科目の履修を通して複眼的視野を深める。これらを通して日々進化する先端技術に柔軟に対応しつつ、環境に配慮することのできる建設技術を身につけた人材を育成する。このコースの教育研究は、復興人材育成特別プログラムの減災工学分野に関係しており、まちを災害から守る技術分野や災害復興に取り組む分野で活躍することのできる人材も育成する。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/diplomapolicy.html）

（概要）
〇養成する人材像
＜準学士課程（本科）、専攻科課程＞
【工学系学科と専攻】
①十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できるエンジニア
②イノベーションに即応するために、問題解決のみならず課題探究できるエンジニア
③モノづくりと環境保全の調和に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できるエンジニア
④グローバルなコミュニケーション能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的エンジニア

専攻科課程の各専攻で養成する人材像
【産業技術システム工学専攻】
本科の機械システム工学科、電気電子システム工学科、化学・バイオ工学科、都市システム工学科のそれぞれの専門分野の基礎学力を充実させ、その応用性や専門性を深める。また復興人材育成特別プログラムにより地域復興に活躍できる人材を育成する。
本専攻は次の4つのコースから成る。

＜生産・情報システム工学コース＞
　機械系・電気系の材料工学分野及び機械加工系、電子・情報工学系を融合した教育・研究を行う。機械設計関連、システム制御関連、電子物性関連及び情報関連分野に関するより高度で応用性の高い専門科目を学び生産・情報分野で活躍できる人材を育成する。このコースの教育研究は復興人材育成特別プログラムのロボット技術、メカトロニクス、防災通信等　と密接に関係しており、これらの分野で地域の復興に活躍できる人材も育成する。
＜エネルギーシステム工学コース＞
機械系・電気系のエネルギー関連分野の教育・研究を行う。エネルギー分野に関するより高度で応用性の高い専門科目を学び、機械・電気関連のエネルギー分野で活躍できる人材を育成する。このコースの教育研究は復興人材育成特別プログラムの再生可能エネルギー分野、原子力安全工学分野にも密接に関係しており、エネルギー関連産業で活躍できる人材も育成する。
＜化学・バイオ工学コース＞
応用化学分野・生命工学分野及びそれらの関連分野の教育・研究を行う。化学・バイオ工学科（準学士課程）専門分野の基礎学力をさらに充実させたうえで、その専門性を高める。さらに、現代の応用化学分野・生命工学分野及びそれらの関連分野における先端技術やその動向に柔軟に対応できる人材を育成する。このコースの教育研究は、復興人材育成特別プログラムの放射線計測関連分野に関係しており、廃炉技術の重要な一分野である放射線及び放射性物質の取扱いの分野で活躍できる人材も育成する。
＜社会環境システム工学コース＞
建設・環境系の教育・研究を行う。土木工学と環境工学に関する専門知識を修得し、さらに関連科目の履修を通して複眼的視野を深める。これらを通して日々進化する先端技術に柔軟に対応しつつ、環境に配慮することのできる建設技術を身につけた人材を育成する。このコースの教育研究は、復興人材育成特別プログラムの減災工学分野に関係しており、まちを災害から守る技術分野や災害復興に取り組む分野で活躍することのできる人材も育成する。

○卒業時（修了時）に身に付けるべき学力や資質・能力
＜専攻科課程＞
1．地球的視野から人や社会や環境に配慮でき、生涯にわたって主体的に学び続ける能力
2．工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力
3．モノづくりやデザイン能力を有し、工学系科目－ビジネスの協働（シナジー）効果により複眼的な視野から問題を見つけ解決する能力
4．国際社会で必要な情報処理能力およびコミュニケーション能力
5．福島イノベーション・コースト構想の基本理念を理解し、地域産業基盤の構築に貢献できる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/curriculumpolicy.html）

（概要）
「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を身につけるため、次のような教育課程の編成方針、および成績評価基準（カリキュラムポリシー）に基づいて教育を実施している。

○編成方針
（1）準学士課程（本科）においては、くさび型※の構成であり、「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」を身に付けるための必修科目、選択科目を適切に設定した、5 年一貫の体系的な教育課程を編成する。専攻科においては、準学士課程の内容からの接続、発展を考慮した、より高度な教育課程を編成する。
※くさび型の教育課程：低学年次においては一般科目を多く配置し、学年の進行に伴い専門科目を多く配置する教育課程
（2）「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を深化させるため、高学年、および専攻科においては、モノづくり、校外での体験、問題解決能力の養成等に関する科目を開設する。
（3）教育課程を編成するに当たっては、全学年で基本的な知識・技能の修得、それらを応用し思考、判断する能力の修得、それらを自発的に学習できる態度・志向性を修得できるように配慮して、科目配置や科目毎の授業内容や授業計画を設計しシラバスに記載し、シラバスにしたがい教育を実施する。

○成績評価基準
（1）科目の成績評価は、定期試験の成績および平素の成績をもとに行う。評価方法はシラバスに記載し、記載された評価方法に基づいて公平に成績評価を実施する。
（2）科目の成績評価結果は 100 点法で行い、60 点以上を合格とする。
（3）各科目について、成績評価が 60 点以上の場合は単位の修得を認定する。

○専攻科課程　各専攻、コースごとの教育課程編成方針
ディプロマポリシーで掲げた能力を育成するために、各専攻各コースでは、以下の科目群を系統的に編成する。
【産業技術システム工学専攻】
＜生産・情報システム工学コース＞
（1）地球的視野から人や社会や環境に配慮でき、生涯にわたって主体的に学び続ける能力を修得できるように、理系教養科目および文系教養科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
（2）工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できるように、機械工学や電気電子工学を基盤として、生産・制御・情報・通信に関連した専門科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
（3）モノづくりやシステムデザイン能力を有し、工学－ビジネスのシナジー効果により複眼的な視野から問題を見つけ解決する能力を修得できるように、産業技術システム工学やビジネスコミュニケーション学に関連する他分野の科目を設け、実験・実習および講義を主とした学修を実施す

る。
(4)国際社会で必要な情報処理能力およびコミュニケーション能力を修得できるように、インターンシップや特別研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
(5)福島イノベーション・コースト構想の基本理念を理解し、地域産業基盤の構築に貢献できる能力を修得できるように、復興人材育成科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
＜エネルギーシステム工学コース＞
(1)地球的視野から人や社会や環境に配慮でき、生涯にわたって主体的に学び続ける能力を修得できるように、理系教養科目および文系教養科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
(2)工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できるように、機械工学や電気電子工学を基盤として、流体・熱・電力・エネルギー等に関連した専門科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
(3)モノづくりやシステムデザイン能力を有し、工学－ビジネスのシナジー効果により複眼的な視野から問題を見つけ解決する能力を修得できるように、産業技術システム工学やビジネスコミュニケーション学に関連する他分野の科目を設け、実験・実習および講義を主とした学修を実施する。
(4)国際社会で必要な情報処理能力およびコミュニケーション能力を修得できるように、インターンシップや特別研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
(5)福島イノベーション・コースト構想の基本理念を理解し、地域産業基盤の構築に貢献できる能力を修得できるように、復興人材育成科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
＜化学・バイオ工学コース＞
(1)地球的視野から人や社会や環境に配慮でき、生涯にわたって主体的に学び続ける能力を修得できるように、理系教養科目および文系教養科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
(2)工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できるように、応用化学や生物工学を基盤とした専門科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
(3)モノづくりやシステムデザイン能力を有し、工学－ビジネスのシナジー効果により複眼的な視野から問題を見つけ解決する能力を修得できるように、産業技術システム工学やビジネスコミュニケーション学に関連する他分野の科目を設け、実験・実習および講義を主とした学修を実施する。
(4)国際社会で必要な情報処理能力およびコミュニケーション能力を修得できるように、インターンシップや特別研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
(5)福島イノベーション・コースト構想の基本理念を理解し、地域産業基盤の構築に貢献できる能力を修得できるように、復興人材育成科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
＜社会環境システム工学コース＞
(1)地球的視野から人や社会や環境に配慮でき、生涯にわたって主体的に学び続ける能力を修得できるように、理系教養科目および文系教養科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
(2)工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できるように、土木工学や環境工学を基盤とした専門科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
(3)モノづくりやシステムデザイン能力を有し、工学－ビジネスのシナジー効果により複眼的な視野から問題を見つけ解決する能力を修得できるように、産業技術システム工学やビジネスコミュニケーション学に関連する他分野の科目を設け、実験・実習および講義を主とした学修を実施する。
(4)国際社会で必要な情報処理能力およびコミュニケーション能力を修得できるように、インターンシップや特別研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。
(5)福島イノベーション・コースト構想の基本理念を理解し、地域産業基盤の構築に貢献できる能力を修得できるように、復興人材育成科目を設け、講義を主とした学修を実施する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/admissionpolicy.html）

（概要）
アドミッションポリシー（入学者受入方針）は、本校の学習・教育目標を達成できる能力を持った人を入学させるための方針で、次のように定めている。
○専攻科課程
求める学生像
【全専攻】
1．　専門の知識と基礎技術を有し、より高度な実践的かつ創造的技術を修得する意欲のある人（知識・技能）
2．工学と経営の融合した分野に強い興味を持っている人（思考力・判断力・表現力）
3．職業人としての倫理観を身につけ、専門分野で地域及び社会の発展に貢献したい人（主体性・協働）
【産業技術システム工学専攻】
＜生産・情報システム工学コース＞
①機械・電気の専門的な基礎力を有し、機械・情報を活用した創造的なモノづくりに興味を持っている人
②生産・情報分野の技術者としての素養を身につけ、豊かな社会の発展に貢献することに意欲を持っている人
＜エネルギーシステム工学コース＞
①機械・電気の専門的な基礎力を有し、エネルギー分野に興味を持っている人
②エネルギー分野の技術者としての素養を身につけ、豊かな社会の発展に貢献することに意欲を持っている人
＜化学・バイオ工学コース＞
①応用化学分野・生命工学分野及びそれらの関連分野の学修と研究に打ち込み、先端技術に柔軟に対応できる知識とスキルを修得したい人
②工学を修める者としての確かな倫理観を持ち、工学の発展及び地域・社会の環境改善に貢献したい人
＜社会環境システム工学コース＞
①建設・環境工学の研究に打ち込み、先端技術に柔軟に対応する知識とスキルを修得したい人
②確かな倫理観を持ち、工学の発展及び地域・社会の環境改善に貢献したい人

学部等名　専攻科ビジネスコミュニケーション学専攻

教育研究上の目的（公表方法：http://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/rinen.html）

（概要）
教育理念
1．広く豊かな教養と人間力の育成
2．科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
3．固有の才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成

学習・教育目標
(A) 地球的視野から人や社会や環境に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。
(B) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。
(C) 工学系科目－ビジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。
(D) イノベーションに即応するために、 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題

解決のみならず課題探究する能力を身につける。
(E) モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける。
(F) 情報技術を活用して、グローバルなコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

養成する人材像
【ビジネス系学科と専攻】
① 自己実現ができるビジネス・スペシャリスト
② グローバルなコミュニケーション能力を有するビジネス・スペシャリスト
③ 論理的思考に優れたビジネス・スペシャリスト
④ 長期的な視野をもち、持続可能な社会の実現に貢献するビジネス・スペシャリスト
専攻科課程の各専攻で養成する人材像
【ビジネスコミュニケーション学専攻】
準学士課程のビジネスコミュニケーション学科の専門的な基礎学力を充実させ、その応用性や専門性を深めることで、地域社会の発展に貢献するとともに、グローバルに活躍できる人材を育成する。本専攻は次の1つのコースから成る。

＜ビジネスコミュニケーション学コース＞
準学士課程のビジネスコミュニケーション学科で習得した社会学系知識の応用力を育み、さらに専門性を深める科目を履修する。くわえて、工学系とビジネス系のシナジー効果を期待できる科目を履修することにより、工学の基礎知識と国際社会で通用するビジネスコミュニケーション能力を併せ持つ人材を育成する。このコースの教育研究は復興人材育成特別プログラムの各分野に関係しており、社会の持続可能性に配慮しながら地域社会の発展に貢献するとともに、たしかなコミュニケーション能力と国際感覚をもち、地域社会と国際社会の垣根をこえてグローバルに活躍できる人材も育成する。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/diplomapolicy.html）

（概要）
○養成する人材像
＜準学士課程（本科）、専攻科課程＞
【ビジネス系学科と専攻】
① 自己実現ができるビジネス・スペシャリスト
② グローバルなコミュニケーション能力を有するビジネス・スペシャリスト
③ 論理的思考に優れたビジネス・スペシャリスト
④ 長期的な視野をもち、持続可能な社会の実現に貢献するビジネス・スペシャリスト

専攻科課程の各専攻で養成する人材像
【ビジネスコミュニケーション学専攻】
準学士課程のビジネスコミュニケーション学科の専門的な基礎学力を充実させ、その応用性や専門性を深めることで、地域社会の発展に貢献するとともに、グローバルに活躍できる人材を育成する。本専攻は次の1つのコースから成る。

＜ビジネスコミュニケーション学コース＞
準学士課程のビジネスコミュニケーション学科で習得した社会学系知識の応用力を育み、さらに専門性を深める科目を履修する。くわえて、工学系とビジネス系のシナジー効果を期待できる科目を履修することにより、工学の基礎知識と国際社会で通用するビジネスコミュニケーション能力を併せ持つ人材を育成する。このコースの教育研究は復興人材育成特別プログラムの各分野に関係しており、社会の持続可能性に配慮しながら地域社会の発展に貢献するとともに、たしかなコミュニケーション能力と国際感覚をもち、地域社会と国際社会の垣根をこえてグローバルに活躍できる人材も育成する。

○卒業時(修了時)に身に付けるべき学力や資質・能力
＜専攻科課程＞
1. 地球的視野から人や社会や環境に配慮でき、生涯にわたって主体的に学び続ける能力
2. 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力
3. モノづくりやデザイン能力を有し、工学系科目－ビジネスの協働(シナジー)効果により複眼的な視野から問題を見つけ解決する能力
4. 国際社会で必要な情報処理能力およびコミュニケーション能力
5. 福島イノベーション・コースト構想の基本理念を理解し、地域産業基盤の構築に貢献できる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/curriculumpolicy.html）

（概要）
「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を身につけるため、次のような教育課程の編成方針、および成績評価基準(カリキュラムポリシー)に基づいて教育を実施している。

○編成方針
(1)準学士課程(本科)においては、くさび型※の構成であり、「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」を身に付けるための必修科目、選択科目を適切に設定した、5 年一貫の体系的な教育課程を編成する。専攻科においては、準学士課程の内容からの接続、発展を考慮した、より高度な教育課程を編成する。
※くさび型の教育課程:低学年次においては一般科目を多く配置し、学年の進行に伴い専門科目を多く配置する教育課程
(2)「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を深化させるため、高学年、および専攻科においては、モノづくり、校外での体験、問題解決能力の養成等に関する科目を開設する。
(3)教育課程を編成するに当たっては、全学年で基本的な知識・技能の修得、それらを応用し思考、判断する能力の修得、それらを自発的に学習できる態度・志向性を修得できるように配慮して、科目配置や科目毎の授業内容や授業計画を設計しシラバスに記載し、シラバスにしたがい教育を実施する。

○成績評価基準
(1)科目の成績評価は、定期試験の成績および平素の成績をもとに行う。評価方法はシラバスに記載し、記載された評価方法に基づいて公平に成績評価を実施する。
(2)科目の成績評価結果は 100 点法で行い、60 点以上を合格とする。
(3)各科目について、成績評価が 60 点以上の場合は単位の修得を認定する。

○専攻科課程　各専攻、コースごとの教育課程編成方針
ディプロマポリシーで掲げた能力を育成するために、各専攻各コースでは、以下の科目群を系統的に編成する。
【ビジネスコミュニケーション学専攻】
＜ビジネスコミュニケーション学コース＞
(1)地球的視野から人や社会や環境に配慮でき、生涯にわたって主体的に学び続ける能力を修得できるように、理系教養科目および文系教養科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
(2)工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を修得できるように、経営学を基盤とした専門科目を設け、講義を主とした学修を実施する。
(3)工学－ビジネスのシナジー効果により複眼的な視野から問題を見つけ解決する能力を修得できるように、ビジネスコミュニケーション学や産業技術システム工学に関連する他分野の科目を設け、実習・演習および講義を主とした学修を実施する。

| |
|---|
| (4)国際社会で必要な情報処理能力およびコミュニケーション能力を修得できるように、インターンシップや特別研究等の議論および発表を伴う科目を設け、実験・実習を主とした学修を実施する。<br>(5)福島イノベーション・コースト構想の基本理念を理解し、地域産業基盤の構築に貢献できる能力を修得できるように、復興人材育成科目を設け、講義を主とした学修を実施する。 |
| 入学者の受入れに関する方針<br>（公表方法：https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/admissionpolicy.html） |
| （概要）<br>アドミッションポリシー（入学者受入方針）は、本校の学習・教育目標を達成できる能力を持った人を入学させるための方針で、次のように定めている。<br>○専攻科課程<br>求める学生像<br>【全専攻】<br>1．専門の知識と基礎技術を有し、より高度な実践的かつ創造的技術を修得する意欲のある人（知識・技能）<br>2．工学と経営の融合した分野に強い興味を持っている人（思考力・判断力・表現力）<br>3．職業人としての倫理観を身につけ、専門分野で地域及び社会の発展に貢献したい人（主体性・協働）<br>【ビジネスコミュニケーション学専攻】<br>＜ビジネスコミュニケーション学コース＞<br>①現代社会への幅広い関心を持ち、社会科学の研究と、語学や情報、環境問題などの関連分野の学習に打ち込む意欲を持っている人<br>②たしかなコミュニケーション能力と情報リテラシーを身につけ、地域社会と国際社会の垣根をこえてグローバルに活躍する意欲のある人 |

## ②教育研究上の基本組織に関すること

| |
|---|
| 公表方法：福島高専HP＞学校案内＞情報公開＞教育情報の公表<br>https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/info/kyouikujouhounokouhyou.html |

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

| 学部等の組織の名称 | 学長・副学長 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| － | 1 人 | － | | | | | 1 人 |
| 機械システム工学科 | 2 人 | 3 人 | 4 人 | 0 人 | 1 人 | 0 人 | 10 人 |
| 電気電子システム工学科 | 1 人 | 3 人 | 6 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 10 人 |
| 化学・バイオ工学科 | 0 人 | 4 人 | 5 人 | 1 人 | 2 人 | 0 人 | 12 人 |
| 都市システム工学科 | 2 人 | 2 人 | 1 人 | 1 人 | 4 人 | 0 人 | 10 人 |
| ビジネスコミュニケーション学科 | 1 人 | 1 人 | 5 人 | 0 人 | 4 人 | 0 人 | 11 人 |
| 一般教科 | 2 人 | 7 人 | 10 人 | 2 人 | 5 人 | 0 人 | 26 人 |

b. 教員数（兼務者）

| 学長・副学長 | 学長・副学長以外の教員 | 計 |
|---|---|---|
| 0 人 | 33 人 | 33 人 |

| 各教員の有する学位及び業績（教員データベース等） | 公表方法：国立高専研究情報ポータル https://research.kosen-k.go.jp/ |
|---|---|

c. ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

| 学部等名 | 入学定員 (a) | 入学者数 (b) | b/a | 収容定員 (c) | 在学生数 (d) | d/c | 編入学定員 | 編入学者数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 機械システム工学科 | 40 人 | 41 人 | 102.5% | 200 人 | 201 人 | 100.5% | 若干名 | 1 人 |
| 電気電子システム工学科 | 40 人 | 42 人 | 105% | 200 人 | 209 人 | 104.5% | 若干名 | 1 人 |
| 化学・バイオ工学科 | 40 人 | 41 人 | 102.5% | 200 人 | 203 人 | 101.5% | 若干名 | 0 人 |
| 都市システム工学科 | 40 人 | 42 人 | 105% | 200 人 | 208 人 | 104% | 若干名 | 2 人 |
| ビジネスコミュニケーション学科 | 40 人 | 40 人 | 100% | 200 人 | 198 人 | 99% | 若干名 | 0 人 |
| 合計 | 200 人 | 206 人 | 103% | 1,000 人 | 1,019 人 | 101.9% | 若干名 | 4 人 |
| 産業技術システム工学専攻 | 20 人 | 16 人 | 80% | 40 人 | 37 人 | 92.5% | 人 | 人 |
| ビジネスコミュニケーション学専攻 | 5 人 | 4 人 | 80% | 10 人 | 11 人 | 110% | 人 | 人 |
| 合計 | 25 人 | 20 人 | 80% | 50 人 | 48 人 | 96% | 人 | 人 |

（備考）

b.卒業者数、進学者数、就職者数

| 学部等名 | 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数<br>（自営業を含む。） | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 機械システム工学科 | 43 人<br>(100%) | 24 人<br>(55.8%) | 17 人<br>(39.5%) | 2 人<br>( 4.7%) |
| 電気電子システム工学科 | 40 人<br>(100%) | 18 人<br>(45.0%) | 21 人<br>(52.5%) | 1 人<br>( 2.5%) |
| 化学・バイオ工学科 | 39 人<br>(100%) | 26 人<br>(66.7%) | 13 人<br>(33.3%) | 0 人<br>( 0%) |
| 都市システム工学科 | 36 人<br>(100%) | 17 人<br>(47.2%) | 18 人<br>(50.0%) | 1 人<br>( 2.8%) |
| ビジネスコミュニケーション学科 | 39 人<br>(100%) | 23 人<br>(59.0%) | 10 人<br>(25.6%) | 6 人<br>(15.4%) |
| 合計 | 197 人<br>(100%) | 108 人<br>(54.8%) | 79 人<br>(40.1%) | 10 人<br>( 5.1%) |
| 産業技術システム工学専攻 | 22 人<br>(100%) | 3 人<br>(13.6%) | 19 人<br>(86.4%) | 0 人<br>( 0%) |
| ビジネスコミュニケーション学専攻 | 2 人<br>(100%) | 0 人<br>( 0%) | 2 人<br>( 100%) | 0 人<br>( 0%) |
| 合計 | 24 人<br>(100%) | 3 人<br>(12.5%) | 21 人<br>(87.5%) | 0 人<br>( 0%) |

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

本科：福島高専専攻科、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、福島大学、茨城大学、筑波大学、宇都宮大学、千葉大学、東京農工大学、山形大学、アルプスアルパイン㈱、㈱クレハ、日本テクノカーボン㈱、トヨタ自動車東日本㈱、東洋システム㈱、三菱電機エンジニアリング㈱、パーソル R&D㈱、あすか製薬㈱、城北化学工業㈱、中外製薬工業㈱、アイリスオーヤマ㈱、㈱大林組、フタバコンサルタント㈱、キャノンアネルバ（株）、㈱ハニーズホールディングス

専攻科：茨城大学大学院、京都工芸繊維大学大学院、筑波大学大学院、JX 金属㈱、東京ガスネットワーク㈱、㈱TBS アクト、（国研）日本原子力研究開発機構、郡山市役所、ソニーグローバルソリューションズ㈱、㈱宮城テレビ放送

（備考）

| c.修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項） | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 学部等名 | 入学者数 | 修業年限期間内卒業者数 | 留年者数 | 中途退学者数 | その他 |
| 機械システム工学科 | 41 人<br>(100%) | 41 人<br>( 100%) | 0 人<br>( 0%) | 0 人<br>( 0%) | 0 人<br>( 0%) |
| 電気電子システム工学科 | 42 人<br>(100%) | 36 人<br>(85.7%) | 2 人<br>( 4.8%) | 4 人<br>( 9.5%) | 0 人<br>( 0%) |
| 化学・バイオ工学科 | 41 人<br>(100%) | 38 人<br>(92.7%) | 1 人<br>( 2.4%) | 2 人<br>( 4.9%) | 0 人<br>( 0%) |
| 都市システム工学科 | 41 人<br>(100%) | 35 人<br>(85.4%) | 1 人<br>( 2.4%) | 5 人<br>(12.2%) | 0 人<br>( 0%) |
| ビジネスコミュニケーション学科 | 41 人<br>(100%) | 37 人<br>(90.2%) | 0 人<br>( 0%) | 4 人<br>( 9.8%) | 0 人<br>( 0%) |
| 合計 | 206 人<br>(100%) | 187 人<br>(90.8%) | 4 人<br>(1.9%) | 15 人<br>( 7.3%) | 0 人<br>( 0%) |
| 産業技術システム工学専攻 | 23 人<br>(100%) | 22 人<br>(95.7%) | 1 人<br>(4.3%) | 0 人<br>( 0%) | 0 人<br>( 0%) |
| ビジネスコミュニケーション学専攻 | 4 人<br>(100%) | 2 人<br>( 50%) | 1 人<br>( 25%) | 1 人<br>( 25%) | 0 人<br>( 0%) |
| 合計 | 27 人<br>(100%) | 24 人<br>(88.9%) | 2 人<br>(7.4%) | 1 人<br>(3.7%) | 0 人<br>( 0%) |
| （備考）本科生は、H30 年度入学生数（R4 年度卒業）による。専攻科生は、R3 年度入学生数（R4 年度卒業）による。 | | | | | |

## ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
ディプロマポリシーを定め、その能力を身に付けるために、カリキュラムポリシーを策定し、これに基づいた教育課程により適切な教育を実施している。教育課程表を着実に実施するため、毎年度、学科毎に授業科目の担当教員を決定し、各シラバスを作成する。学生の教育効果も踏まえた成績評価方法をシラバスに記載され、年間授業が計画的に実施される。

## ⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
科目毎に学修効果を考慮し、定期試験や課題等の成績評価割合を設定している。これら評価方法はシラバスに記載され、あらかじめ学生に公表される。また、卒業研究や特別研究等の実習科目は成果発表会の実施、卒業論文の提出、実験科目ではレポートの提出等により適正に評価のうえ、単位を与えている。「学則」及び「福島工業高等専門学校試験及び成績評価に関する規則」により、成績評価や単位認定の基準を示し、進級・卒業・修了を認定している。

| 学部名 | 学科名 | 卒業に必要となる単位数 | ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項） | 履修単位の登録上限（任意記載事項） |
|---|---|---|---|---|
| | 機械システム工学科 | 167 単位 | 有・(無) | 単位 |
| | 電気電子システム工学科 | 167 単位 | 有・(無) | 単位 |
| | 化学・バイオ工学科 | 167 単位 | 有・(無) | 単位 |
| | 都市システム工学科 | 167 単位 | 有・(無) | 単位 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | ビジネスコミュニケーション学科 | 167 単位 | 有・�無 | 単位 |
| | 産業技術システム工学専攻 | 62 単位 | 有・㊙ | 単位 |
| | ビジネスコミュニケーション学専攻 | 62 単位 | 有・㊙ | 単位 |
| ＧＰＡの活用状況（任意記載事項） | | 公表方法： | | |
| 学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項） | | 公表方法： | | |

## ⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：福島高専 HP＞学校案内＞情報公開＞教育情報の公表
http://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/info/kyouikujouhounokouhyou.html

## ⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

| 学部名 | 学科名 | 授業料（年間） | 入学金 | その他 | 備考（任意記載事項） |
|---|---|---|---|---|---|
| | 機械システム工学科<br>電気電子システム工学科<br>化学・バイオ工学科<br>都市システム工学科<br>ビジネスコミュニケーション学科 | 234,600 円 | 84,600 円 | 61,050～129,250 円 | その他内訳<br>日本スポーツ振興センター共済掛金：1,550 円<br>学生会費：8,500 円<br>学生会入会金：1,000 円<br>後援会費：6,000 円<br>後援会入会金：10,000 円<br>課外活動助成費：15,000 円<br>寮生会費：3,000 円（寮生のみ）<br>寄宿舎料：二人部屋 4,200 円（寮生のみ）<br>教科書代：20,000～40,000 円<br>教具教材費：10,000～40,000 円 |
| | 産業技術システム工学専攻<br>ビジネスコミュニケーション学専攻 | 234,600 円 | 84,600 円 | 18,150～38,050 円 | その他内訳<br>日本スポーツ振興センター共済掛金：1,550 円<br>学生会費：8,500 円<br>学生会入会金：1,000 円（福島高専出身者以外のみ）<br>後援会費：6,000 円<br>後援会入会金：10,000 円（福島高専出身者以外のみ）<br>教科書代：2,100～11,000 円 |

## ⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

| a.学生の修学に係る支援に関する取組 |
| --- |
| （概要）<br>４年次編入学生及び専攻科入学生に対して、修学支援制度に申請予定または採用候補者となっている場合、入学金及び前期分授業料等の徴収を猶予する取組を実施している。<br>条件としては、４年次編入生については、既に予約採用において採用候補者であるか、または４月からの募集に申請予定であるか、専攻科新入生については、既に採用されていて継続申請を行う予定であるか、または４月からの募集に申請予定であるかである。<br>猶予期間は、４月手続き後、日本学生支援機構給付型奨学金の認定・不認定の結果が出るまでの期間である。 |
| b.進路選択に係る支援に関する取組 |
| （概要）<br>クラス担任制により随時、進路相談支援が可能な体制としている。<br>また、学内に男女共同参画・キャリア教育支援室を設け、進路相談への体制を整えている。 |
| c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 |
| （概要）<br>クラス担任制により随時、心身の健康等の相談支援を可能とし、保護者と連携できる体制としている。<br>また、学生保健センターを設置し、教員、保健室、カウンセラー、スクールソーシャルワーカーが連携して、学生の心身の健康相談に対応する体制を整えている。 |

## ⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

| |
| --- |
| 公表方法：福島高専HP＞学校案内＞情報公開＞教育情報の公表<br>https://www.fukushima-nct.ac.jp/annai/info/kyouikujouhounokouhyou.html |